

自然体験を通じた子どもの健全育成

～子どもの健やかな成長のために～

子どもたちは自然とのふれあいを通じて、どのようなことを学んでいるのでしょうか。

荒川区自治総合研究所は平成27年度から新たに「自然体験を通じた子どもの健全育成研究プロジェクト」を立ち上げ、自然体験が子どもたちの「生きる力」や幸福実感に与える影響について調査研究を開始しました。



自然体験ってなんで
大事なのかな？

私たちの生活やコミュニティは自然の上になり立っています。自然とのつながりは、私たちの心身の発達や健康などにとって重要であり、次代を担う子どもたちの健やかな成長にとっても、非常に大切なものです。

街の中にも自然って
あるのかな？



自然とのふれあいの場面は、人里離れた雄大な大自然の中だけに限られているわけではありません。里山、里海、里川といった言葉で表されるように、自然は我々のもっとも身近な場所で私たちの生活を支えてきました。また、どんな人でも街なかの公園の緑や、家の中の小さな鉢植えの緑にほっと心を癒された経験があるはずです。

都市の中の自然

農山漁村の自然

大自然



自然体験をして子ども
はどう変わったの？

自然体験は子どもたちの健全育成にどのような影響を与えているのでしょうか。

本研究では、自然体験の代表的な事例として、各小学校で実施している「移動教室」をとりあげました。

平成27年9月に清里移動教室に参加した区立小学校5年生の児童341名を対象として、移動教室の前と後に「生きる力^{*1}」に関する同一の質問を行うことで、その回答の変化を測定しました（有効回答255）。

調査の結果、「いやなことは、いやとはっきり言える」といった心理的社会的能力、「自分かってな、わがまを言わない」といった徳育的能力、「早寝早起きである」といった身体的能力のすべてにおいて、数値の向上が見られ、自然体験が子どもの「生きる力」を育むことがデータ上からも明らかになりました。

^{*1} 生きる力とは？

子どもたち一人一人が、社会の一員として自ら主体的に行動し、様々な課題を解決していくための能力であり、幸福を追求していく上での基礎となる力です。

「自然への気づき」が大切です！



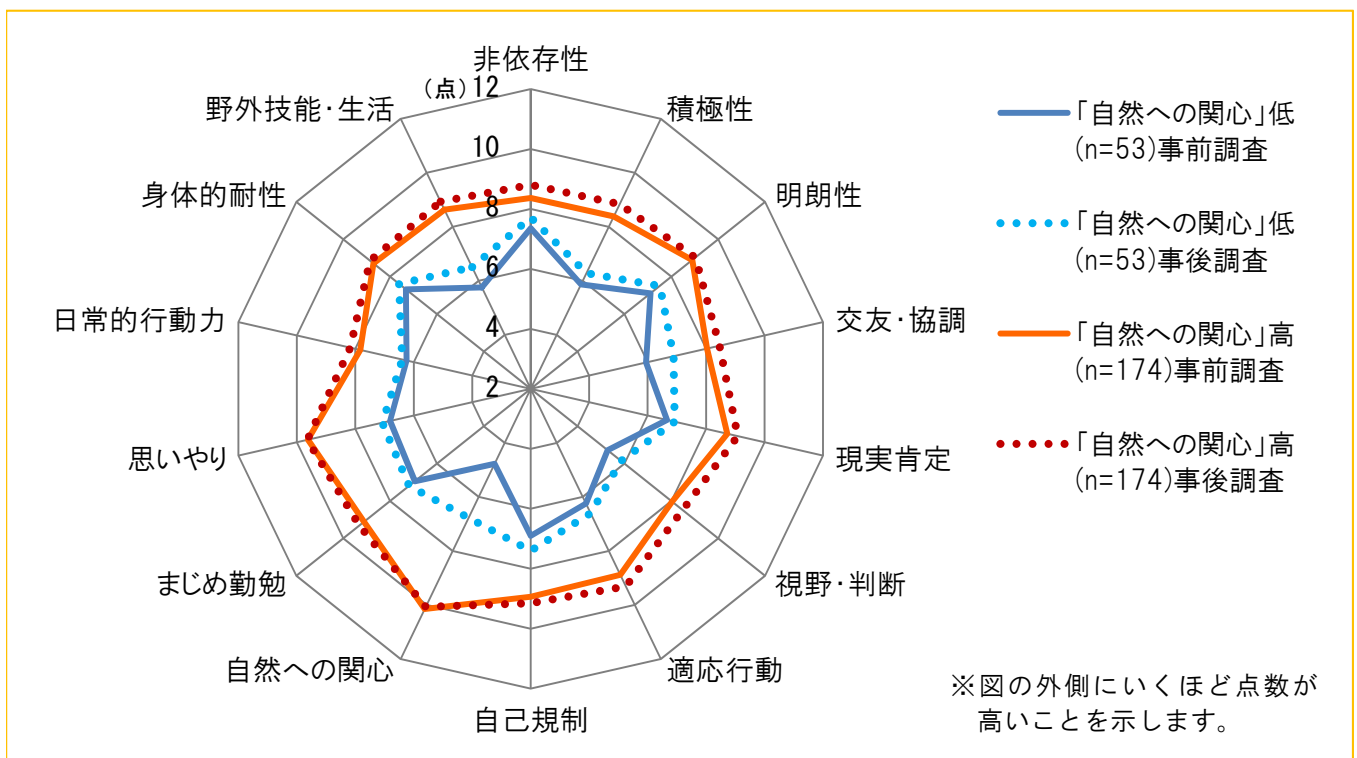
自然はいつも私たちのまわりにあります、意識しなければなかなかその存在に気づきません。身の周りの自然に気づく、その感性が豊かなほど、より豊かな経験をすることができるでしょう。

アンケート調査では、「花や風景などの美しいものに、感動できる」と「季節の変化を感じることができる」という2つの質問によって、児童の「自然への関心」を測っています。

移動教室に参加する前（事前調査）において、「自然への関心」が高い児童^{*2}と、低い児童^{*3}に分け、それぞれの回答を比較したところ、「自然への関心」が高い（自然への感性が豊かな）児童のほうが、「生きる力」を構成する様々な質問の得点も高い傾向にあることがわかりました。

*2 事前調査において「自然への関心」の得点が2～12点中、8～12点の児童

*3 事前調査において「自然への関心」の得点が2～12点中、2～6点の児童



また、移動教室に参加する前には「自然への関心」が低かった児童でも、実際に自然に触れることで、移動教室の後では「自然への関心」が大きく高まり、さらには「交友・協調」「視野・判断」「自己規制」の得点にも大きな向上が見られました。

移動教室における自然体験が、児童にとって自然に関心を抱かせる大きなきっかけとなり、また自然への感性を磨くことで、より豊かな体験ができるようになるのではないのでしょうか。

子どもの自然体験に対して区はどんなことをやってるの？

	乳幼児	幼保	小一	小二	小三	小四	小五	小六	中一	中二	中三	高校	一般
大人のおでかけ													■
清里区民ハイキングツアー													■
青少年委員宿泊研修													■
中高生リーダー養成講座									■	■	■	■	■
移動教室							■	■	■	■	■	■	■
区民スキー教室						■	■	■	■	■	■	■	■
自然まるかじり体験塾						■	■	■	■	■	■	■	■
高学年キャンプ							■	■	■	■	■	■	■
下田臨海学園、清里高原学園									■	■	■	■	■
わくわくふれあいキャンプ									■	■	■	■	■
チャレンジ共和国									■	■	■	■	■
少年キャンプ									■	■	■	■	■
山登り									■	■	■	■	■
わくわくチャレンジキャンプ									■	■	■	■	■
国際交流バスハイク									■	■	■	■	■
区民ハイキング									■	■	■	■	■
冬の星空観察									■	■	■	■	■
あらかわエコセンター見学									■	■	■	■	■
夜の親子観察会「セミの羽化」									■	■	■	■	■
浜っこガーデナーウィッシュ									■	■	■	■	■
浜っこスポーツウィッシュ									■	■	■	■	■
デイキャンプ(石浜)									■	■	■	■	■
不思議クラブ DX									■	■	■	■	■
野菜の栽培									■	■	■	■	■
サマーソルティ									■	■	■	■	■
マラソン大会									■	■	■	■	■
冬の遠足									■	■	■	■	■
オータムキャンプ									■	■	■	■	■
尾久の原公園であそぼう									■	■	■	■	■
デイキャンプ(南千住)									■	■	■	■	■
低学年キャンプ									■	■	■	■	■
遠足									■	■	■	■	■
はっぴい公園お花植え替え大作戦									■	■	■	■	■
自然体験ボランティア									■	■	■	■	■
飛鳥山公園デイキャンプ									■	■	■	■	■
エコセンター見学デイキャンプ									■	■	■	■	■
子ども会大会		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
エコセンターのヤゴを捕まえよう		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
昆虫を捕まえて観察しよう		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
葛西臨海公園に行こう		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
ホタル観賞のタベ		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
街なか花壇づくり事業		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
オオムラサキ観察会		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
昆虫観察園		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
MJキッズ遠足		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
いもほり遠足		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
自然を活かした工作物等の製作		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
交流都市交流事業	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
秋を体験荒川自然公園	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
クラフトタイム 落ち葉でスタンプ	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
乳幼児タイム 公園遊び(2歳児)	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
乳幼児タイム 屋上遊び	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
乳幼児タイムにおける散歩や遠足	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
幼児タイム遠足	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
パパとあそぼう	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
乳幼児タイム 野菜の栽培と収穫	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
公園巡回サポート事業	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
大竹さんと花あそび	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■

最も多くの事業が提供されている年代

小学校1年生～6年生

子どもの発達段階に応じた多様なプログラムが用意されています！

身近な自然

公園やふれあい館の敷地等を活用して自然とふれあう活動が多く行われています

普段はなかなか気づかない都市の中の自然の豊かさに気づく機会となっています！

親子で参加

「夜の親子観察会」など保護者と子どもの双方を対象とした事業が数多くあります

保護者の自然体験への関心を高めることが、より豊かな子どもの自然体験につながります！

平成27年度の荒川区の自然体験関連事業について、事業の対象年代ごとに分類してみると・・・

乳幼児から大人に至るまで、途切れることなく

実に様々な事業が行われていることが分かりました！

区への提言 —子どもの自然体験を推進させていくために—

連携の強化

独自の人材やノウハウを持っている様々な地域団体との連携を強化していくことで、質・量の両面から子どもたちの自然体験を充実させていくことが重要です。財政的な支援を含め、総合的な連携体制を構築していくことが欠かせません。

また、既にいくつかの自治体では、地域の自然環境・生態環境を資源とした新たな観光戦略を打ち出しています。奥多摩町などグリーンツーリズムに特に力を入れている自治体では、ハード・ソフトの両面からツーリストの受け入れ態勢の整備が進められています。

荒川区は、全国連携の取り組みを積極的に進めており、交流都市や「住民の幸福実感向上を目指す基礎自治体連合（幸せリーグ）」等の独自のネットワークがあります。これまでも山形県鮭川村との「鮭の里親事業」など、特色ある様々な連携を行っていますが、今後も子どもの豊かな成長にとって有益となるこうした地域間交流を充実させていくことが大切です。

人材育成

体験の質は、指導者の指導方法や活動プログラムの内容によって左右されます。指導者の技能や活動のノウハウをいかに継承し、どのように適切に世代交代を図っていくのか。優れた指導者の養成は、自然体験事業の充実と継続を考える上で最も重要な問題の一つと言えます。

現在荒川区では区職員や荒川コミュニティカレッジ受講生向けに自然観察指導員を養成する講座を行っていますが、地域の団体等にもこうした講座への参加を促すなど、学びの場をさらに広げ、指導者の育成を支援していくことが求められます。

新たな視点

自然体験は、必ずしも自然を体験すること自体を目的にしているわけではありません。たとえば、鉢植えの緑や公園の木々に関心を向け、自然のもつ意味について考える時、日常の何気ない場面が自然体験へと変わります。我々の身の周りにある身近な自然にまず意識を向けることが大切です。

区が実施している様々な事業の中には、屋外の公園・広場や河川敷など自然の中で行われていながらも、「自然体験」の側面については特段意識されていない活動もあります。

たとえば区内の広場・公園で行われる各種の活動の中に、また農山漁村を通るバスツアーの中に、自然と我々の暮らしや持続可能な発展について、また農山漁村と都市との関係について学ぶ機会を取り入れてみるなど、様々な工夫をこらすことで、新たな自然体験の機会を生み出すことができるでしょう。

意識して区内を見渡してみると、「街なか花壇」や都電荒川線沿いのバラ、さらには玄関先のプランター、鉢植えのちょっとした緑など、街の至るところに自然があることに気づきます。

こうした都市の中にある自然を活用し、子どもたち自らが土や木、草花に触れることのできる機会を生み出していくことが重要です。

編集・発行

公益財団法人荒川区自治総合研究所

住所：荒川区荒川 2-11-1 電話：03-3802-4861

URL：http://rilac.or.jp/ E-mail：info@rilac.or.jp

